

## 「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（令和3年度FS・令和4年度採択）

## 中間評価結果（公表用／ハード分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
2021-7	データ同化をベースとした高耐久フライアッシュ コンクリート舗装についての技術研究開発	日本大学 教授 岩城一郎	A
<p>&lt;研究の概要&gt;</p> <p>本研究は、アスファルト舗装からの適切な転換が期待されるコンクリート舗装に対し、設計供用期間 100 年の実現を目指し、SIP で培った高度な実験と解析を駆使したデータ同化手法をベースに、高耐久 FA コンクリート舗装の開発と実装を行うものである。</p> <p>&lt;中間評価結果&gt;</p> <p>汎用性のある耐久性評価モデルの構築を通じ、それぞれの現場で適切なコンクリートの種類選定を可能とする「高耐久コンクリート舗装の手引き」のとりまとめが期待されるため、現行の通り推進することが妥当であると評価する。</p> <p>&lt;参考意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>データ同化解析と実験結果がよく一致している。この成果を『高耐久コンクリート舗装の手引き』を作成する際にどのように応用するのかを示してほしい。</li><li>データ同化手法の活用の利点およびフライアッシュの優位性をより明確にできるとよい。</li><li>鉄筋コンクリート舗装であるため、長期の塩分浸透性の更なる低減が望ましい。</li><li>題目にある「データ同化をベースとした」の箇所について、どのような一般化された技術が示されるのか明確になるとよい。</li></ul>			

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第 49 回新道路技術会議において審議したものである。